

放射線技術部便り

～ vol. 5 ～



ヤスゴン-夜須高原記念の森-

白十字病院 放射線技術部 広報誌

～急性期脳梗塞におけるMRIの役割～

今回は、急性期脳梗塞におけるMRI検査の役割についてお話しします。MRI検査は磁場と電磁波を使う検査です。15分ぐらいで数種類の画像を得ます。この画像がそれぞれ意味を持ち、様々な疾患の除外や、脳梗塞の診断に繋がります。以下に示されるように、脳梗塞は大きく3つに分類されます。

- 1 心原性脳梗塞
- 2 アテローム性脳梗塞
- 3 ラクナ梗塞

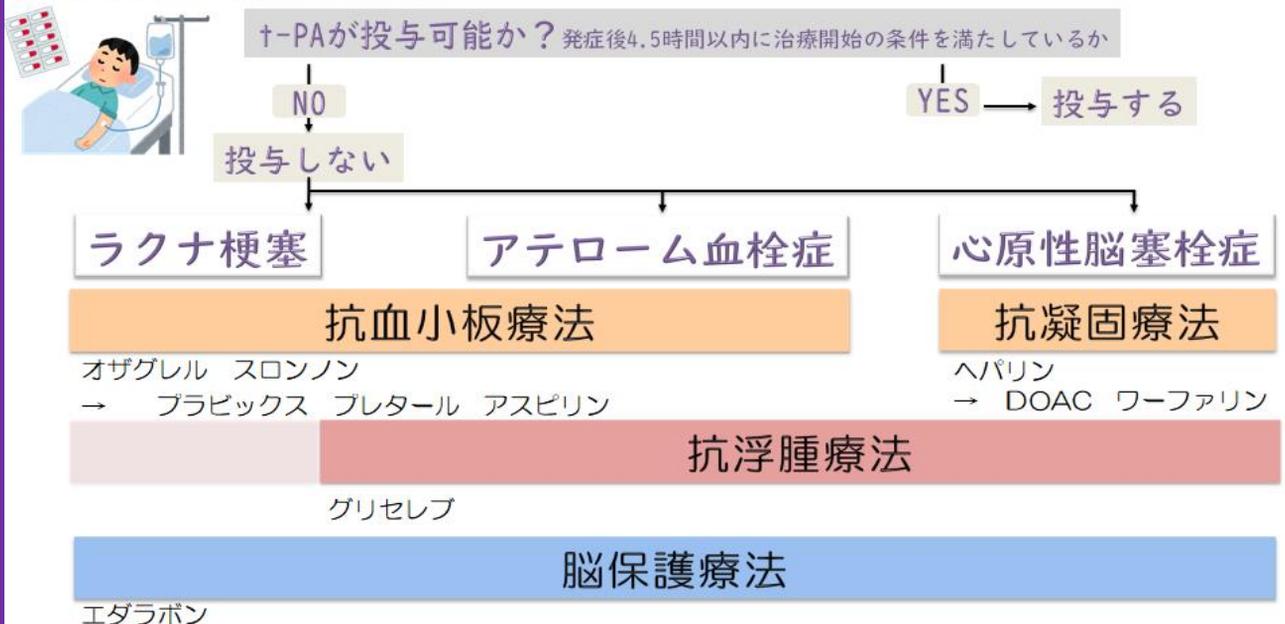
心臓で形成された血栓が詰まることで起きる脳梗塞

動脈硬化が原因で生成されたアテローム（粥腫）の為に動脈内腔が狭小化し十分な脳血流を保てなくなったもの
又、アテロームが動脈壁からはがれ落ちて末梢に詰まったもの

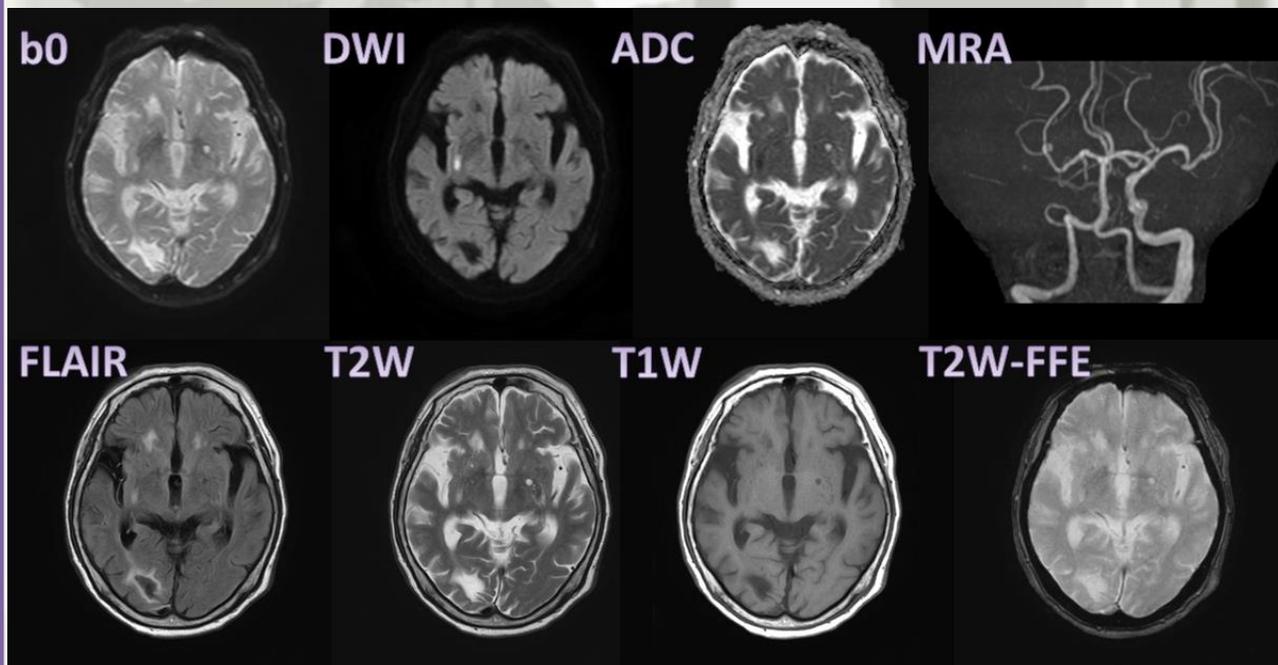
穿通枝領域に生じる直径1.5cm以下の小さい梗塞

そして、この3つは下図のように、それぞれ治療薬が異なります。

脳梗塞の薬物治療



● 頭部MRI検査では下図のように数種類の撮像します。中でもDWI（ディフュージョン）画像を撮ることで急性期の脳梗塞の有無がわかります。DWI画像は拡散強調画像と呼ばれ、通常臨床においてはこのDWI画像とDWI画像を基に作成されるADC（エーディシー）画像の信号パターンが発症時期の推定において重要になります。



● 急性期脳梗塞における頭部MRIの役割は・・・治療方針の決定です！ DWI画像やADC画像等で急性期脳梗塞の有無を調べ、MRA画像で血管の走行を確認します。患者さんの既往歴や、症状、画像等を総合的に判断し、どの分類の脳梗塞に該当するか見極め、治療が開始されます。



TOPICS

先日白十字病院内の勉強会で、看護部とリハビリテーション部を対象に、「脳梗塞とMRI画像の関係」について、放射線技術部の視点から話を行いました。

多くの職種が集まったこともあって質疑応答の時間では様々な視点から質問があり、放射線技術部としても、改めて自分たちが行ってきた検査を考え直すきっかけになりました。

今後も多職種で情報を共有し、連携、補完しあうことで、患者さんの状況にあわせた的確な医療を提供していけたらと思います。



勉強会風景